

台風 18 号による大雨災害により被災された姉妹都市・宮城県大崎市の皆様にお見舞い申し上げます。

特集

輪・和・話

知恵の 人の マチの

災害が発生したとき 必要なものとは…。



大崎市を流れる渋井川の堤防決壊で
広範囲にわたり浸水被害がありました

(写真：大崎市提供)

防災に対して関心をもっていますか？

もし災害が発生しても自分は大丈夫だと思っていないですか？

4 年前に発生した東日本大震災、そして今年 9 月 11 日、
台風 18 号の大雨により姉妹都市・宮城県大崎市は
甚大な被害を受け、多くの住民が被災されました。

いつ我が身に降りかかるかもしれない災害。
今回は、自分や家族が被災したときどう対応するべきなのか
実例を紹介します。



(写真：大崎市提供)



平成 23 年 3 月 11 日、東日本大震災による被災の様子。

(写真：大崎市提供)

地震発生後、多くの地域で一時的断水となり水を求めた人々は給水場に長い列を作りました。

防災に対する意識向上を図る「平成 27 年度当別町防災セミナー」が 9 月 4 日に開催され各町内会長など住民 75 人が参加しました。

セミナーでは、高齢化や地域コミュニティ減少など地域社会の背景と災害への備え、普段から防災に対する意識を持つことの重要性について講師から話がありました。

今回、講演内容からその一部を紹介します。



防災セミナーの様子

命を守る「水」の確保を



公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構

阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター

主任研究員 ふるもと なおき
古本 尚樹 さん

災害が発生した際、無いと一番困るのが「水」です。単に飲むだけのものではなく、調理やトイレにも使用します。

実際に災害が発生するとライフラインが寸断してしまうことが想定され、まずは「飲み水」の確保が重要となります。

水が無いと夏は脱水症状に陥りやすくなり、冬は乾燥により風邪をひきやすくなるなど、2 次被害、3 次被害にも発展しかねないもので、水はとても重要なも

のであるといえます。

また、災害発生時における要配慮者(高齢者や障がい者)への対応も、家族をはじめ地域全体で行っていくことも大切なことです。

「自分の住むまちは大丈夫」「自分たちは大丈夫」という根拠のない安心感は持たずにいつ起こるか分からない災害に備えることが必要です。

3リットルを
3日分備蓄しよう！

地震等の災害発生により被災したとき、一般的に救護体制が整うまでには、3 日間を要するといわれています。

人間は生きていくうえで、安静にした状態でも成人 1 日あたり 0.8 リットルから 1.2 リットルの水分を摂取することが必要です。

万が一に備えて「飲料水」を備蓄する生活習慣を身につけていきましょう。

家庭で実行できる「飲料水」の備蓄方法は右のとおりです。

飲料水の保存方法



「水道水」の場合

- ①清潔なフタができる容器に口元いっぱいに水を入れてフタを閉めます。
- ②日光の当たらない涼しい保管場所では、3 日～1 週間、冷蔵庫では 1～2 週間を目安に水を取り換えます。



「市販のボトル水」の場合

その製品の保存方法や賞味期限など記載事項を確認して、期限が近づいたものは飲む、調理に使用するなど有効に活用しましょう。

大規模災害を想定した避難訓練

町では防災意識を向上させ、実際に災害が発生した時にどのような対応をするのか、弥生・旭町・万代町・白樺町・北栄町・西町の各町内会の自主防災組織と関係機関合同による避難訓練を9月10日に実施しました。

【参加者】住民 191人

【関係機関】航空自衛隊第四十五警戒群、札幌方面北警察署、当別消防署、役場

【訓練概要】

午前9時30分に震度6弱の地震が発生した想定で、当別町災害対策本部の設置から各関係機関と連携し、避難勧告発令により避難所に指定した総合体育館まで参加住民が避難を実施。避難完了後に各機関からの講評がありました。

午前9時30分 地震発生!! (訓練開始)

災害対策本部設置

災害対策本部から各関係機関、役場各部局に連絡して周辺地域のパトロールを指示



午前9時45分 避難勧告発令

避難開始

住民が避難を開始、避難場所（総合体育館）までの移動が困難な方は航空自衛隊のバスで移動します。



車いす使用者や負傷者発生を想定して避難及び救急搬送の訓練も実施しました。



午前 10 時 10 分頃～ 避難所に到着

避難所へ

避難場所（総合体育館）到着後、避難者確認のために氏名を記入します。



避難完了後に講評が行われ、災害が起きたときにどのように行動するべきか、常に意識を持つことの大切さを改めて認識しました。

また、訓練では参加者全員に試食用として非常食が配付されました。



配布された非常食



乳児から高齢者まで幅広い年代の方が参加しました。

午前 11 時 30 分 訓練終了

防災への備えをしていない方は今からでも遅くありません。
大切な「命」を守るためにも災害時の対応を準備しましょう。

町内会での取り組み

春日町自主防災組織（町内会）が「コミュニティ助成事業」により災害物資を整備しました。

一般財団法人自治総合センターでは、全国自治宝くじの受託事業収入を財源として、住民のコミュニティ活動の促進と発展を図る宝くじ助成事業を行っています。

今年、春日町自主防災組織では、この助成事業を利用して発電機、パイプ TENT、特定小電力型無線機等を整備しました。

今回の整備により、春日町自主防災組織のさらなる防災活動の充実、強化が期待されます。



【問合せ先】 総務課総務係（防災担当）
☎ 23 - 2330